

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 4 月 15 日)

### 述而第七

24 子<sup>し</sup>四<sup>よ</sup>つを以て教<sup>もつ</sup>う。文<sup>おし</sup> 行<sup>ぶん</sup> 忠<sup>こう</sup> 信<sup>ちゅう</sup>。

孔子が言うには、私は四つの学びを以て教えている。文は学業、行は実践、忠は誠実、信は信頼。

この四つを基本にして教えているのだから、そう難しいことを教えているのではないということ言下に滲ませています。尤もこの四つが出来たら素晴らしい人物だと後の学者は言っています。なかなかこれは出来るものではありません。

ちなみに、文(学業)とは詩書礼楽ですから、少し掘り始めると、どんどん広がっていくようなものに感じます。自分自身を振り返ってみて、文、行、忠、信のどれか一つが身に付けば素晴らしいと思います。言うことと行うことが一致すれば素晴らしいし、人とお付き合いするのに嘘をつかない付き合いをしていけば、これも素晴らしいことです。何か一つ出来れば良いなと思います。

25 子曰く、聖人<sup>せいじん</sup>は吾<sup>われ</sup>得<sup>え</sup>て之<sup>これ</sup>を見<sup>み</sup>ず。君子<sup>くんし</sup>者<sup>しゃ</sup>を見<sup>み</sup>ることを得<sup>え</sup>ば、斯<sup>こ</sup>れ可<sup>か</sup>なり。子曰く、善人<sup>ぜんにん</sup>は吾<sup>われ</sup>得<sup>え</sup>て之<sup>これ</sup>を見<sup>み</sup>ず。恆<sup>つね</sup>有<sup>あ</sup>る者<sup>もの</sup>を見<sup>み</sup>ることを得<sup>え</sup>ば、斯<sup>こ</sup>れ可<sup>か</sup>なり。亡<sup>な</sup>けれども有<sup>あ</sup>りと為<sup>な</sup>し、虚<sup>むな</sup>しけれども盈<sup>み</sup>てりと為<sup>な</sup>し、約<sup>やく</sup>なれども泰<sup>たい</sup>なりと為<sup>な</sup>す。難<sup>な</sup>きかな恒<sup>つね</sup>有<sup>あ</sup>ること。

孔子が言うには、私は聖人(神のような人)というものに会ったことがない。君子らしい人に会えれば、それで文句はない。善人というものにもまだお目にかかったことがない。心変わりしない人を見ることができれば、これまた素晴らしい。

無いのに有るふりをする、空っぽなのに満ちていると見せかける、儉約ばかりしていた人がいつの間にか贅沢になっている。心変わりをしないというのは、実に難しいことだ。

自分自身を振り返ってみて、神のような人になるのは無理だけれども、君子らしい人を目指すことは出来ると思います。それが出来れば素晴らしい。

心変わりをしないという部分で、今の人は結婚してもすぐに離婚をしますから、なかなか心変わりをしない人同士で一緒になるというのは難しいと思います。統計では、離婚をしない夫婦から生まれた子供たちは、離婚をしないケースが多いそうです。

儉約をしている人が、いつの間にか贅沢になるという部分では、今回の震災で停電したり、水が飲めなくなったり、食べ物が思うように手に入らなくなったりしました。これは、知らず知らずの間に贅沢になっていた我々を戒めているようなものかなと思います。我が身を振り返るには、きっかけになったのだらうなと感じました。